



Japan Display Design Association
「コミュニケーション機能クリエイトする」
社団法人日本ディスプレイデザイン協会

ディスプレイデザイン大賞に 「鳥のビオソフィア-山階コレクションへの誘い-」決まる

国内外の空間環境系デザイン賞を決める「ディスプレイデザイン賞 2008」（日本ディスプレイデザイン協会主催、朝日新聞社後援）の審査会がこのほど東京で行なわれ、応募総数 871 作品の中からディスプレイデザイン大賞（朝日新聞社賞）に東京大学総合研究博物館「鳥のビオソフィア-山階コレクションへの誘い」=写真= が選ばれた。



社団法人 日本ディスプレイデザイン協会
会長 山田昌之
デザイン賞委員会

■詳細問合せ先およびデータの請求先：
社団法人日本ディスプレイデザイン協会 デザイン賞委員会
101-0054 東京都千代田区神田錦町 2-4 フクヤマ第3ビル23号室
T. 03-3259-1661 F. 03-3259-1662 email: dda@dda.or.jp

DDA Award for Display Design of the Year 2008



Japan Display Design Association
「コミュニケーション機能クリエイティブ」
社団法人日本ディスプレイデザイン協会

「鳥のピオソフィア-山階コレクションへの誘い」展 資料

展示期間:2008年3月15日~2008年5月18日

場所:東京大学総合研究博物館

主催:東京大学総合研究博物館+財団法人山階鳥類研究所

東京大学創立130周年記念する「鳥のピオソフィア-山階コレクションへの誘い」展は、東京大学総合研究博物館と(財)山階鳥類研究所がさまざまな共同研究を進め、長期に亘り両機関に蓄積されてきた鳥類学術標本を、「アート&サイエンス」の研究プログラムの協働の成果として再解釈する試み。会場を構成する5つの空間を展示物の特性に従って個性化し、展示コンセプトの違いを実感させる。プランクーシの抽象彫刻と絶滅鳥の巨大卵殻、ロシア構成主義の空間と昭和天皇ゆかりの鳥類剥製、珍奇なモノの蝟集する紅い色の「驚異の部屋」とモダニズム趣味の純白空間、古い木製什器とレトロ・モダンなガラスケース、隊列をなす鶏のコレクション、シャープなピン・スポット光と柔らかな拡散光など、極端な対照性を「デザイン」として止揚することで、モノを見ることの愉楽を来館者に体感させる。

企画:東京大学総合研究博物館 秋篠宮文仁、西野嘉章

デザイン:東京大学総合研究博物館 西野嘉章、関岡裕之、セルジオ・カラトーニ

プロダクション:セキオカヒロユキデザイン、商華堂

クライアント:東京大学総合研究博物館

カメラマン:Forward Stroke 奥村浩司



DDA Award for Display Design of the Year 2008